

2021年 第46回

# 視点

## 全国公募写真展

ヤング部門 あります

- 視点賞 1名 土門拳揮毫「視点」額 (賞状と賞金30万円)
- 奨励賞 3名 (賞状と賞金10万円)
- 優秀賞 7名 (賞状と賞金3万円)
- 特選 10名 (賞状と賞金1万円)
- ヤング賞 1名 (賞状と賞金5万円)
- 準ヤング賞 3名 (賞状と賞金1万円)
- 入選 (賞状と写真集「視点」)

写真はいずれも2020年「視点」の入選・入賞作品です



山本暁「街の灯」特選



武田典子「アンドゥトワ」入選



森住卓「けもの住処」奨励賞



野呂彰「路地一日々のカケラ」奨励賞



夏目安男「東京ブラックホール」入選



共同制作・6人の眼  
「止まったままの時計—フクシマ」視点賞



露木義光「ガード下」入選



堂畷紘子「椰子(ナギコ)と生きる」奨励賞

個性豊かな写真を募ります。  
一人で何点でも応募できます。

# 作品募集

## テーマ、内容は自由

単写真または最大8枚までの組写真  
(ヤング部門は5枚以下)  
写真サイズ A4または六切のプリント  
応募資格にいったいの制限はありません

送付受付 2月12日(金)～3月5日(金)

持参受付 2月26日(金)～3月5日(金)

展示: 東京都美術館(上野公園内)

会期: 6月6日(日)～6月13日(日)

ただし、6月7日月曜日は休館いたします。

巡回展: 高知、浜松、名古屋、仙台、三重、大阪

入選作品は東京都美術館で展示し  
選抜作品は全国6ヶ所を巡回展示します  
写真集「視点」に入選作品を収録し  
入選者全員に贈呈します

主催 日本リアリズム写真集団(JRP) / 2021「視点」委員会

〒160-0004 東京都新宿区四谷3-12沢登ビル6F <http://www.jrp.gr.jp> Email: [jrp@jrp.gr.jp](mailto:jrp@jrp.gr.jp)

問い合わせ先 (13:00～18:00) TEL: 03-3355-1461 FAX: 03-3355-1462

★2021★選考委員

第46回



はーびー・やまぐち **ハービー・山口**

1950年東京都出身。23歳からロンドンに10年在住。現地の劇団員を経て写真家になる。常に「希望、夢、ときめき、元気」をテーマにモノクロ作品を撮り続けている。写真の他エッセイ執筆、ラジオのパーソナリティー(現在はFMヨコハマで「ハービーズレディオ」がOA中)、さらにはギタリスト布袋寅泰には歌詞を提供している。2011年度日本写真協会賞作家賞。現在大阪芸術大学、九州産業大学客員教授。

誰でもが写真を撮れる時代になりましたが、「単にカメラを使うと写真が写る」ということと、「自分のテーマやスタイルを構築し強い意志を持って写真を撮る」とはだいぶ内容が違います。もちろん私たちは後者の方です。

私たちが生きていく中で、何が一番こだわり、

何を表現したかったのかを常に問い続け、写真を見る人々に伝わっていることを確信したいのです。

変化する時代の中で、常に自分をリフレッシュして素晴らしい写真を残そうではありませんか。今しか撮れない写真、自分しか撮れない写真に果敢に挑戦して頂きたいと思ひます。



はなぶさしんどう **英伸三**

1936年千葉市生まれ。農村問題などを通して日本社会の姿を追いつつ、1992年から中国の改革開放政策による変貌を追っている。伊奈信男賞など受賞。写真集『一所懸命の時代』など多数。JPS会員、JRP代表理事。現代写真研究所所長。

コロナ禍のため人との接触を避けなければならない、この状態が続けば人間関係も希薄になってしまいうすです。こんな時こそ、心に迫る写真で熱いメッセージを人々に届けたい。ふだん大切に思っていること、暮らしの中で気づいたことなど、誰も撮っていない手付かずのテーマに挑戦して、独創的な作品をお送りください。



たたらり **多々良栄里**

1969年静岡市生まれ。26歳から写真を撮る。写真集「さようであるならば」は、故郷の人々と風景。膨大な数の日常は光を表している。一人の人間としての葛藤と予感。簡単には言い表せない感情を写真に託す。

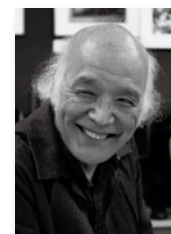
「視点」展が存在する意味はどのようなものでしょうか。何をもって作品に優劣をつけるのでしょうか? 今、皆さんがどんな写真を撮っているのか、とても興味があります。人々の心を癒し、元気づけ、生きる指針にもなる写真があるからこそ、カメラを持って街に出て、シャッターを押しているのだと思います。人々の精神性を可視化し、心や魂を語る写真を見たいと思ひます。それが例え小さな声だとしても、耳を傾けられる選考でありたいと思ひます。



なかむらごろう **中村梧郎**

フォトジャーナリスト。ベトナム戦争・枯葉剤を追及。元岐阜大学教授。著書「新版・母は枯葉剤を浴びた」(岩波現代文庫)。「戦場の枯葉剤」(岩波書店)。83年ニコン伊奈信男賞。05年科学JASTJ賞。07年NYでマグナム60周年招待作品展。JCJ代表委員。JPS会友。

コロナが世界を席卷しています。森林破壊や気候変動、起きてる現象のすべては背後でつながっていてもいます。写真はこうした事態を記録することができます。破壊させてはならない日本の美。生きている人々も身近に存在します。鋭く見事な表現にチャレンジして下さい。単写真の傑作も期待しています。



かなせゆたか **金瀬 胖**

1944年千葉市生まれ。主な関心事は社会の風景と音楽家。写真集『ZONE』、『EXPOSED 東海村感光録』、『浦廻』、『路上の伝記』ほか。写真展多数。写真の会賞など受賞。JPS会員、JRP代表理事。現代写真研究所教務主任。

近年はメディアが流す画像が圧倒的な量で「わたしの写真」の空間を窒息させ、すぐ忘れ去られるようになった感じがします。写真ほど面白く、美しく、興味深いものを私は知らないのですが、写真は大切なことを見つけ、イメージを深く刻み、それを人と世に残すのだと思ひます。残すとは、大切ななにかを「忘れない」ということですね。「視点」はみんなの写真でそれを実現するものと考えています。その「視点」を刷新するような写真の登場を楽しみにしております。

視点